

フレンズ国際労働キャンプ 関東委員会 定例委員会報告



2002年11月

フレンズ国際労働キャンプ(FIWC)

関東委員会 定例委員会報告

2002年11月30日(土)

東京・新中野・目黒鍼灸院にて

参加者：目黒美穂子、
枘田香織、佐藤正明、
服部雅行、田中裕也、
佐野一矢、松長麻美、
鳥居厚志、原田僚太郎、
西尾雄志、島倉陽子、
佐藤里香、高津阿礼、
藤澤真人



活動報告

中国ワークキャンプ..... 1
韓国キャンプ報告会..... 2

活動予定

各種イベント案内..... 2

中国キャンプのための哲学

西尾雄志..... 3

FIWC関東・会計から..... 4
次回の定例委員会..... 4

活動報告



「郭ちゃん、里芋落とすなよ！」(真人)

た。そして、気温30度の炎天下で働き、虫刺されと格闘する私たちを、眉間にしわをよせて辛そうに心配してくれました。

当初の計画では、完成を待たずして帰国しなければなりませんでしたが、天候に恵まれたことと(完成まで雨なし)、業者・キャンパーの頑張りで、予定より1週間早く仕上げ、無事完成を見届けることができました。そのためフリーデイを作ることができ、中国人学生の大学へ遊びに行くこともできました。

詳細は、12月15日(日)15時〜早稲田奉仕園で行われる報告会や報告集を是非ご覧下さいませ。

◎枘田香織

中国ワークキャンプ報告会

12月15日(日)15時〜

早稲田奉仕園フォークトルーム



現場監督(後方の村人)が撒を飛ばす



活動報告会

11月16日(土) 14時〜、早稲田大学12-3号館にて、カンボジア教育支援基金とF-WCの合同活動報告会が開かれました。内容としては、両団体の概要紹介と、カンボジア教育支援基金がこの夏に行ったスタディツアーの報告とカンボジアの現状、現在抱えている問題の解説を、F-WCからもこの夏のフィリピンキャンプと韓国キャンプの活動報告と、フィリピンキャンプの大澤瑞季さんが関わっている…の宣伝を行いました。全体としては、F-WC側の準備不足により、報告会として十分に機能したとは言えないものになってしまいました。これまでほとんど知らなかった互いの団体について理解が深まり、よい交流の機会にはなったことと思います。この会を期に、定期的な報告会等開かれるようになることでは、という事で会は終了となりました。ということでもみなさん次回をよろしくと乞うご期待。

◎松長麻美



森元美代治さん講演会

12月9日 練馬文化センター
12時30分〜開場
13時00分〜映画「あついで」上演
15時00分〜森元美代治講演会

早稲田大学教育学部公開講座

12月12日 16時20分〜17時50分
早稲田大学本部キャンパス14号館教室

中国キャンプ報告会①

12月6日 17時〜18時30分
河合塾コスモ校(千駄ヶ谷駅徒歩10分)

中国キャンプ報告会②

12月15日 15時〜17時
早稲田奉仕団フォークトルム
以上4件

◎西尾雄志

年末キャンプ

12月26日〜30日 奈良・交流の家
毎年恒例の交流の家・年末キャンプを今年も開催いたします。日程は12月26



日の夜から30日の昼までです。今年のワーク内容は、釜小屋の改修工事と障子の張替えです。また、29日の夜はF-WCの報告会および忘年会を行い、30日の朝には大俵の餅つきもありです。ぜひ参加してください!!
場所：奈良市大倭町2-33 交流の家
詳しい事を知りたい方は藤澤真人まで

お願い

年賀状、書き損じ葉書を集めます。

年賀状を書く季節になりました。郵便局に年賀状を注文し、住所録の整理をし、どんなイラストにしようか、準備し始めているころだと思えます。

そんな時、やってしまうのが「あつ間違えた!逆様に版画をおしちやった!」「宛名の名前を間違えた!」「大好きなあの子に出すのだからもつときれいな字がいい!」といった失敗ではないでしょうか?気づいてみたら出てくる書き損じはがき。

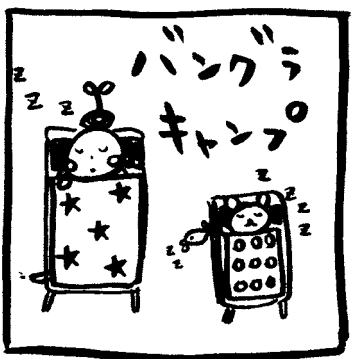
そんな書き損じはがきを中国ワークキャンプに頂けないでしょうか?頂いたはがきで、中国ワークキャンプのワーク費にあてさせていただきます。あなたの書き損じはがきが、中国ワークキャンプで大いなる手助けになります。ご協力よろしく願います。

愛ある書き損じはがきの送り先

◎藤澤真人

12月23日(月) 9時〜16時
新宿野村ビル
バン格拉デシワークキャンプ参加者有志ではじめたフリーマーケットの第7回目を今月12月23日(月・祝)に行います。誰でも参加可能なので、興味のある方はぜひご参加ください。商品の募集もしております。

◎阿部静生



フリーマーケット

12月23日(月) 9時〜16時
新宿野村ビル

バングラデシワークキャンプ参加者有志ではじめたフリーマーケットの第7回目を今月12月23日(月・祝)に行います。誰でも参加可能なので、興味のある方はぜひご参加ください。商品の募集もしております。

フリーマーケットで集まった基金は、バングラデシの特に子供たちのための何かに使おうという目的で始めました。今年10月には、バングラデシにあるPROKASというNGO団体が運営している小学校の増設、建て替えのための材料費として寄付していただきました。柱やはりなどに必要な木材の購入に充てることになり、その買い付けの場にも立ち会ってきました。

しかしまだ寄付の金額としては小額なので、これからもフリーマーケットを通して少しずつでも寄付金を集めていきたいと考えています。(鳥居厚志)

◎阿部静生

<http://www.banglacamp.org/>

バングラ会のお知らせ

2003年1月11日(土) 13時〜21時
国立オリンピックセンター
第2ミーティングルーム

参加費：キャンプ参加者1000円
ゲストは500円

バングラデシワークキャンプ参加者主催で来月1月に「バングラ会」を開催します。今回で3回目となり、代々木のオリンピックセンターで大々的に行う予定です。

バングラ会というのはバングラキャンプ参加者のOB会のようなものなのですが、今回はフィリピン、ネパール、中国、韓国など、様々なキャンプの参加者ほか、誰でも参加してもらって人と人とのつながりを強めようと考えています。

午後の部では「大トークバトル」を予定。さまざまなキャンプに参加したメンバーが一同に会し、それぞれのキャンプの紹介も交えながら、各キャンプの長所短所を比較したり、キャンプに対して思うことを述べたり、お互いに疑問をぶつけ合ったり、またボランティア、ワークキャンプそのものについて話し合うのもいいでしょう。

またバングラデシやネパールの人の視点から僕らの活動がどう映るか、どんな思いを持つかなどのコメントなども伺ってみたいと考えています。

夜間の部では、歓談も交えながらお笑いコンビ「オアシス」のコントをはじめ、第一回でも好評だったクイズ大

会「バングラカルトQ」も予定。
見事高得点を獲得した方々には地方からの特産品を賞品として進呈。

会場にはバングラデシユの写真を壁に掲示して写真展のような雰囲気にしたいとも思っています。

ぜひご参加ください。こなければ損です。来年の運を逃してしまいます。

◎鳥居厚志

メーリングリスト加入のお誘い

バングラデシユワークキャンプではお互いの情報交換、連絡手段、その他雑談独り言、そしてキャンパー同士のつながりを深めるためにメーリングリストを活用しています。

バングラキャンパー以外の方にもどんだん参加してきていただきたいので、ご希望の方は次のアドレスまでお送りください。

◎吉岡華子

ベラ9月キャンプ報告

現在バングラデシユワークキャンプは「VELA（ベラ：代表：高柳愛子）」という団体名で活動が行われています。

今年9月にもキャンプを開催しましたので、簡単な報告をします。

キャンプリーダー：高柳愛子

アシスタントリーダー：吉岡華子

現地協力団体：LPP

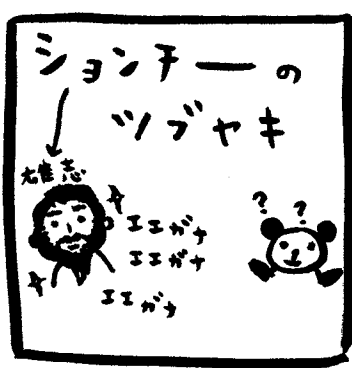
現地コーディネーター：Rokshana

キャンプ地：Matlab（モトロブ）
ワーク内容：トイレの材料作り、広場の埋め立て

その他プログラム：食の交流会、半日教室、バーベキュー、フェスティバル、ダッカツアー、ホームステイ

日本人参加者：21名（男11名、女10名）
ベラの今後の活動としては、引き続きワークキャンプ、フリーマーケットの継続と、来年2月からは隔月（偶数月）で定例会をはじめていく予定です。この定例会には誰でも自由に参加できる方針です。（鳥居厚志）

◎高柳愛子



中国キャンプのための哲学

委員長 西尾雄志による哲学コミモノ。

3回にわけて掲載していきます。

1. ハンセン病という病
2. 今、私たちがとってハンセン病とは
3. アマチュアリズムとプロフェッションナリズム — ハンセン病問題におけるワークキャンプの定位 —

中国キャンプのための哲学

西尾雄志

1. ハンセン病という病

ハンセン病は、とても変わった病だ。

医学的知識がないのでよくはわからないが、この世には無数の病というものがあろう。その中で、ハンセン病はいたって特異だ。

「いやあ、子供の頃おたふくをやってね。42度も熱が出て、親がえらい心配したらしいよ。そうなんだ。実は、俺『おたふく回復患者』なんだ」

そんなこと聞いたことない。
「いやあ、イタイ、イタイとは聞いたんだけど、ホンマ、痛かったで！ ちんちんから石が出てくるとき。あれはたまらんな。そう、わしな、実は『尿管結石回復患者』なんや」
こんなコトバも聞いたことはない。

「いや、病気のことは家族にも言いたくなかったです。誰にも知られずになんとか治療しようとした。病院にもなかなか決心がつかなくて行けなかったです。そうなんです。誰にも言わないでくださいよ。ワタシ、じつは『回復患者』なんです」
これもありえない。

「『きゅび回復患者』『頭痛回復患者』『急性アルコール中毒回復患者』『虫歯回復患者』『腸のポリープ回復患者』……」
どれも聞いたことがない。

しかしハンセン病の場合だけ、「ハンセン病回復患者」「ハンセン病快復者」「元ハンセン病者」。

そんなコトバが聞かれる。
なぜなのか？

それはハンセン病が、一回病んでしまったら、病が癒えた後も、一生離れることができない病気だったからだ。だから病気が治った後も「カイフクシャ」などと変な呼称で呼ばれる。

れる。

私たちが、おたふくが治った後に「おたふく回復感」と呼ばないのは、おたふくが治ったら、おたふくのことなどどうでもよくなるからだ。それはおたふくになった人にとっても、その人の周りにいる人にとってもそうだった。治ったんだもの。

尿管結石でどんなに痛い思いをしようが、ちでどんなに人知れず一人で孤独に悩もうが、どんなにつきゅびが痛かろうが、病気というものは普通、治ってしまったら、もついのである。さよならなのである。

「よかった、よかった」
で「しまい」、なのである。

しかし、ハンセン病の場合、それが許されなかった。ハンセン病の場合「治っておしまい」という、病気としてはあたりまえのことが許されなかった。

それは日本の場合、法律が許さなかった。政府が許さなかった。社会が許さなかった。世間が許さなかった。地域共同体が許さなかった。そして、家族が許さなかった。ここに、数ある病のうちでおそらく、ハンセン病だけがもつ特異な悲しみがあつた。

今、日本でハンセン病がたどった歴史を簡単にまとめよう。わかりやすいように、悪い奴という奴に分けよう。

まずハンセン病において一番悪い奴。「らい菌」

これがハンセン病の根源だ。こいつさえいなければよかった。最初の悪い奴だ。

そしてコイツをやつつけた人がいた。特効薬のプロミンを開発した医学研究者だ。プロ

ミンを患者に投与した無数の医者達だ。このプロミンのおかげでハンセン病は治る病気になった。いい奴は、医者たちだ。

しかし、それで終わらなかつた。

筋のとおらない法律があつた。ハンセン病という病気になった人たちは、ハンセン病が治ってもハンセン病とサヨナラできなかった。入所規定だけがあり退所規定のない法律があつた。それがハンセン病が治った人を縛った。ハンセン病において次にでてくる悪い奴。

「らい予防法」

これがハンセン病が治った人たちの社会復帰を阻んだ。

だいたいにおいて、法を超えた存在であるはずのカミサマの前で、いやしくも永遠の愛を誓う結婚生活という療養所にも、きちんと「離婚」という退所規定がある。そこから考えても、入所規定だけがあって退所規定がないということが、人間にとっていかに受け入れ難いものであるかが、身に染みてわかるというものだ。

しかしこれもやつつけた人たちがいた。らい予防法廃止にむけてがんばった人権活動家たちだ。そのなかにはハンセン病回復者と呼ばれる人たちもいたし、弁護士さんもいたし、無数の市民たちもいた。いい奴は、予防法廃止にむけて運動をした人たちだ。

これが日本において、1996年。つい最近のことだ。特効薬のプロミンが開発されて、50年以上もたつてからのことだ。遅きに失した感否めぬ。

なんて言ってる場合ではない。まだ終わっていないのである。

おどろくべきことに、ハンセン病の問題はそれでもなお「おしまい」にならなかったのである。

特効薬が開発され、治る病になって、それを意味なく取り締まる理不尽な法律も廃止され、それでさらには、国が悪かった、間違っていた、と認めて国家賠償訴訟の控訴を断念しても、まだハンセン病の問題は終わらないのである。

ハンセンの問題にとって「終わり」とは、病気がサヨナラすることだ。

おたふくが治った人がおたふくを忘れるように、ムシ歯が治った人がムシ歯を忘れるように、ちが治った人がちを忘れるように、結核が治った人が結核を忘れるように、ハンセン病が治った人がハンセン病を忘れる。ハンセン病が治った人のお父さんが、お母さんが、お姉さんが、お兄さんが、親戚が、近所の人がある人がハンセン病にかかった。ああ、そういえばそうだったわね。元気になってよかったね。日常的に、ごくありふれた言葉としてそういえる、それがハンセン病の問題の最終的な「終わり」なのだ。

いや、そこまでいくのが不可能にしても、少なくともその人にとって過去にやんだ一つの病に過ぎない病名をとって、その人を呼ぶ、つまり「ハンセン病回復者」と呼ぶ、そんなことがナンセンスになる、それが終わりである。つまり、ハンセン病回復者、なんて言葉がなくなる日が、ハンセン病問題の一応の終わりだ。

しかしハンセン病の問題は、いまだこままで到達していない。正確に言えば、私たちの社会が、いまだそこに到達していない。

それはハンセン病に対する差別と偏見がいまだに社会にあるからだ。

らい予防法が廃止され、国が誤った政策を認め「回復患者」たちに謝罪した後も、療養所を退所し、社会復帰した人はほんの微々

たるものだ。これは療養所に暮らす人たちが高齢という理由もあるだろうが、それ以外にも社会からの差別と偏見がいまだあることは否定できない。その終わりに到達することをジャマする最後の悪い奴は誰だ？そしてそれをやっつけるいい奴は誰だ？

ここまできて、最後の問題は今までの「イイ奴」「ワルイ奴」の構図が当てはまらなくなっていることに気づく。

差別、偏見のもと回復者たちの社会復帰を阻んでいるのは、私たちひとりひとりが構成している社会であり、世間である。つまりハンセン病の問題で3番目に出てくる悪い奴、それはつまり、私たちの自身であるからだ。

では、どこから正義の味方がやってきて最後の悪い奴の私たちをやっつけてくれるのだろうか？

おそらく、それはありえない。いや、ありえないというより、社会を構成する一員として、自分ではなにもせず、正義の味方がやってくるのを待つだけというのは、あまりに無責任というものであろう。

差別や偏見、そしてそれを生み出す社会という問題の解決は、プロミンや裁判の時のように、「イイ奴、ワルイ奴」の構図では解決しない。

ではどんな解決があるのか？

それはワルイ奴自身の「自己反省」以外にないように思える。

「自己反省」

差別や偏見を生み出す心。それは誰ももっている。その心を自己反省的に問い直す。それも日常的な具体的な生活の場で見直す。それが大切であるように思える。

それは、差別や偏見が生まれてくるのが常に、日常生活の次元だからだ。

日本のハンセン病の歴史をふり返ると、差別や偏見には、学会や国の政策という背景が

あったにしても、差別や偏見が実際にその力行使するのは、普段のごくありふれた日常的な生活の場以外にない。

その日常生活のありふれた場での、ありふれた出会いの中で、ほんの少し医学的知識や人権意識に目配せしながら、差別や偏見を生み出す私たちの心を見直す、それが今、問われていることなのだろう。

私たちがやろうとしているこの中国のキャンプが、差別と偏見、私たちの社会を見直す、日常的なありふれた場、きっかけになればいいと思う。そして中国のキャンプで体験する無数の些細な出来事を、ひとつひとつ、丁寧に考え、自分や社会というものを見つめ直したいと思う。

今、われわれが試みているキャンプの最終的なゴール。それは「ハンセン病カイフクシャ」という言葉が、「ち」回復者」という言葉と同じくらい滑稽に聞こえ、ナンセンスな言葉になること、なのだ。



FIRC 関東委員会の年会費

年会費は3000円です。年会費の振込みは以下のどちらかの口座にお願いします。

※領収証の発行を希望される方は、その旨お知らせください。

○郵便振替 □座番 00170-2-565117

加入者名：FIRC 関東委員会

○郵便貯金 記号 10120 番号 62574261

□座名義：FIRC 関東委員会



次回の定例会は1月18日(土)

19時から。場所は目黒はり療院。司会は松長麻美さん。

定例委員会報告

2002年11月号

2002年12月8日発行

フレンズ国際労働キャンプ(FIRC)

関東委員会

委員長 西尾雄志

編集：茂木亮(茂木新聞社)

web@mognet.org

イラスト：目黒美穂子



※PDF版では、個人の連絡先などの個人情報掲載していません。連絡が必要な方は次のアドレスまでメールにてご連絡ください。
web@mognet.org



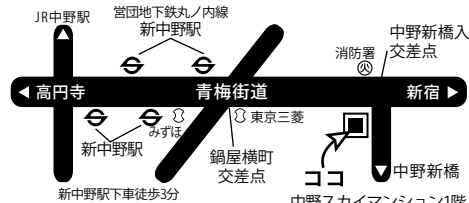
モグネット
www.mognet.org

募集中!!

- ワークキャンプの記録・意見・写真
- ハンセン病問題の資料、論文
- 各種イベント情報 などなど

韓国ハンセン病定着村について、書籍「灯の村」からまもなく掲載予定

目黒鍼療院



東京都中野区本町4丁目5-14 phone 03-3381-9381

定例会はメグシンで
はり治療もメグシンで

月～金：9:30～17:30
土：9:30～16:30
日・祝：お休み